

輝け若人

東京に本社があるゼネコンから内定をいただいた。私が土木関係に就きたいと考えるようになったのは、大学3年生の秋ごろだった。大学生になったばかりのころは、就職について深く考えもしなかったが、3年生になると就職に関する講義が増え、就活の空気が漂い始めた。その中で

就職担当の先生から、ゼネコンで働くある先輩の話を聞いた。

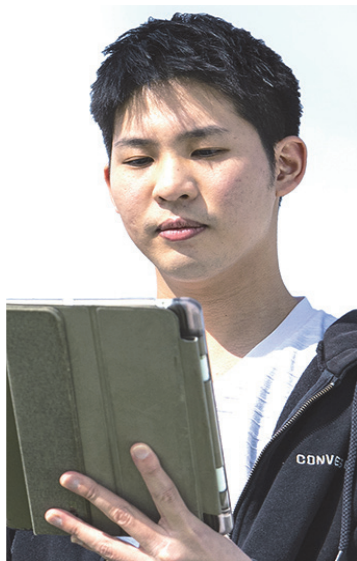
はじめはあまり関心

に向かうと、先生は先輩本人に電話で連絡も取ってくださった。

実際に土木技術者の

いたオンラインインタビューに申し込んだ。受ける中で「半永久的に残るもの、人々に安心

飛び込んでみる勇氣



第一工科大学 4年
環境工ネルギー工学科

伊集院 兼節 さん

がなかったが「この道に進んでみたい」と思える瞬間があった。もう一回話を聞くために、改めてその先生のもと

仕事について聞かせていただき、強く魅力を感じるようになった。私はすぐに行動に移り、その時期でも行われて

安全な暮らしを提供できる」などの言葉に感銘を受け、この道に進みたいと考えた。それから2カ月経たない

うちに内定をいただいた。

あの瞬間、先生の話聞きに行かなかったら、インターンを受けなかったらと考えると怖くなるし、勇氣をもつて飛び込んでみる大切さを感じた。今は同じ業界に進む友人と2級施工管理技士の勉強をしている。覚えることに大変さを感じる瞬間もあるが、自分が関わった建設物が人々の役に経つ瞬間があるのだと考えると、勉強にもやる気が湧いてくる。人々に安心安全な暮らしを提供し、笑顔を与えられる土木技術者になるため、努力し続けるつもりだ。